



平物名公書家

下卷



本朝名公墨寶卷之下

目錄

八幡山惺々齋



雄德山松花堂惺翁

花下忘歸因

美京樽前勳

醉是喜風

まゝにたれし

まゝにたれし

神 かりかた

あゝ
の
あゝ

位 細沙箱

湖 岸 崎

鳥 籠 野

いさよ

了了了了了了了了

月夜之松雪笑之れと

花之々々々々

花之々々々々

如女韶光

知如之

今宵露宿

在祐泉

鳥一
時來

伴
出
暮
隨
飛

朝
踏
落
毒
相

鳥
一
時
來

伴
出
暮
隨
飛

朝
踏
落
毒
相

向く羅ちふ其此

— 今おは

心かろて

之にれぬ

静まらしむる

五

衣帯

背 膝 物 福 年

紗 紐 宿 病

考 軍 箱

きりぎりす

きりぎりす

花の文

きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

花の文

あまのこ
きりぎりす
花の文

孫河文光

多山也

俊是多夫

在天下

多
ち
は
な
な
な
な

小
ち
な
な
な
な

な
な
な
な
な

何
の
け
な
な
な

玉
や
な
な
な
な

下
六

杯
必
雨
洞

新
秋
地

相
多
な
な
涼

多
な
な
な

風流昨夜

聲了跡無

高路及明路

渡水舟

聲了跡無

高路及明路

渡水舟

あさきあけぼの

夜すま

三川と成美

カクシクシカクシ

カクシ

夫、子乳

カクシ

カクシ
カクシ
カクシ

五八

三、輝岸

雪之花袖

白

一夜中

子
霜花の雪

為 亦 無 心

祿 亦 無 心

亦 無 心

亦 無 心

亦 無 心

歸 亦 無 心

亦 無 心

飲 亦 無 心

亦 無 心

雲がくれ

ふらふらと

ふらふらと

あふらふらと

あふらふらと

晴く神は舞原

猿一門

雲の女は花

雲の女は花

わがやうに

ま—羅なうのそ

乞—し

や—あ

あ

ふ—やあ

若使栄部

道好勝

海—心集

不—心

晨明のうら

しききれき

若

心のみま

うひくおね

とねんは

報類曉興

曲形志

孝深名白

うら心実

夜過山
 深海
 空燒浪
 酒身
 氣
 乾

夕
 のは
 山
 山
 山
 山
 山

ふれむれ
むるれ
く
た
ふ
た
ふ

人

は

之

子

ふいにきふ死

かりこやう

秋の月

あつたつた

あつたつた

向晚篇以

生白露

終夜床底

見青

夫亦々々々々

後々々々々

のやうに

一羅々々々

々々々々々

下十六

是亦若花叶

海情心

唐山雨夜

子中菴中

心こころをこころすこころめ

心こころをこころすこころめ

心こころをこころすこころめ

心こころをこころすこころめ

心こころをこころすこころめ

心こころをこころすこころめ

心こころをこころすこころめ

長生殿

善喜社

不老門

前日月邊

よりのよりの

よりのよりの

あゝーだる

きり

きり

山布晴嵐

一竿酒蹄斜陽意

数篋人家煙味中

山路醉眠

歸去晚

太平一日

不喜風

五

あ。あ。あ。あ。あ。

う。い。い。い。い。

あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。

遠浦歸帆

鷺島青山一抹秋

漁平碧浪橋三水

歸棹漸入

暮色花去

家在夕陽

江之頭

風也

浪

清き世如斜

人

漁村夕照

為若沙汀成影

稿

江浦江山開一畫

呼聲 賞酒

大泉 孫

朴 老 西 風

森 一 穂 光

五十五

かみ の えき せい せい

法 一 程 み せい せい

よ け せき せい せい

の ち ち

遠寺晚鐘

雲遮不見梵王宮

殷々鐘聲訢晚風

下三

此去上方

猶遠近

為言只在

此山中

く 燕 々 家 勢 々 々

流 々 々

か ぬ の ま ま に 暮 ら っ た

今

今 ち 心 持 っ て 暮 ら っ た

采 沙 落 鷹

古 字 考 考 漢

口 筆 換

幾 何 秋 心 行

道正法印

御函書

籍向神陽

利東湖

あまのりやま

のりやま

あまのりやま

あまのりやま

あまのりやま

洞庭秋月

西風剪出芙蓉

三首

多頃耀波涵桂花

下

漁舟不知

歸客恨

直吹寒秋

三首

秋

秋風吹
落葉
滿
空

力學

招
力學

下世

滿湘夜雨

先自思
江易
新
鏡

凍雲
粘
雨
濕
蒼
昏

孤燈遙志

新筆意

紙白竹枝

添減痕

石子よひ

たのしみ

よるあはれ

あはれ

新法に

江天暮雪

雪江暮雪
江天暮雪
江天暮雪
江天暮雪

高身一
高身一
高身一
高身一

前湾
前湾
前湾
前湾

西群
西群
西群
西群

秋是
秋是
秋是
秋是

高
高
高
高

あゝの繁みりるる

おろもふの

漢

みよけのまは

ゆふの

古人學書者未有不從門入蘓公終爲
非家珍實知蘓公語病如彼鍾繇受章
仲將羲之學衛夫人者有故乎名公墨
寶者何 本朝諸名公之墨刻也
本邦自古未見有勤珉刻木之帖是非
乏其人而好事者鮮矣一日或人以此
事求我予假借所知家藏極究目力臨
模鑄刻者若干人若干帖或行草或假

名惟急於成帙有不得廣蒐博采之遺
憾然墨寶之嗜好淳化之遺意也於是
可見龍飛虎跳風雲浮動之姿縱雖無
神采望其面目者也若臨池者步其蹊
逕知其端倪者庶幾一助云爾

明曆四年仲冬月

